

Hm助成支援団体のご紹介

プチポカ会

事務局 おおしま かず お 大島 和夫さん

平成27年9月、同じ写真講座に通っていた人同士で結成したのが「プチポカ会」です。

「講座終了後に卒業生が、撮影技術のさらなる向上を目指し、講座の講師であった写真家の藤岡重弥さんを招いて活動を始めました」と会の広報的な役割を務めている大島和夫さんは語ります。

年齢、性別、職業にかかわらず、“写真”という共通の趣味を持つ10人ほどが集って活動をスタート。毎月一回、それぞれが撮った写真を持ち寄り、お互いに意見を出し合い、藤岡さんがプロの視点でアドバイス。時にはメンバーと一緒に撮影に出掛けることもあります。それぞれの自宅に飾るカレンダーづくりなども行いました。

写真を通して新しい自分の発見、新たな出会いも



▲講師を交え写真を批評しあう様子

「藤岡さんからは、思いを大切にして撮りましょう、とアドバイスいただいています。メンバーが集うことで、写真を上手に撮る目的以外にも、撮った写真から新しい自分を発

見したり、写真がもたらす不思議な出会いも楽しんでいます」。

現在、メンバーは22人まで増え、平成28年4月には「光と時間—その時、その場所—」をテーマに、



▲グループ展の様子

初めてのグループ展を開催。たくさんの方が訪れたことが、今後に向けての大きな励みにもなったそうです。

「今後は、撮影技術の向上を図るだけでなく、メンバーが持つ写真撮影の意欲をまちづくりにも役立てることができるように考えています。例えば、活動記録を必要とする団体へメンバーが



▲メンバーの皆さん

出向き、撮影を行い交流することで、地域活動の活性化にもつながるのではないのでしょうか」。

最後に、大島さんは今後の活動への夢について語ってくれました。

美鈴が丘西集会所管理委員会

事務局 いとう かず お 伊藤 和夫さん

およそ1万人約4,000世帯が暮らす広島市佐伯区美鈴が丘団地。その中にある4つの集会所の1つ「美鈴が丘西集会所」を管理運営する組織が、昭和61年に結成された「美鈴が丘西集会所管理委員会」です。

団地の4つの集会所の中でも、センター的な位置づけとなっている「美鈴が丘西集会所」は、対象の西街区の住民はもちろん、美鈴が丘団地内のさまざまな団体が、親睦や交流の場として、各種行事や会議などに利用しています。

集会所を軸にした地域コミュニティの活性化

「美鈴が丘西集会所は、美鈴が丘団地のほぼ真ん中にある、団地一番のイベント夏祭り会場として使われている「西ふれあい広場」に隣接していることもあり、幅広い世代が利用しています。平成25年から、“人にやさしい集会所づくり”として、集会所の周りでグリーンカーテンを育て、エコな環境の下で各種交流が活



▲集会所を覆うグリーンカーテン

化しています」と事務局のグリーンカーテン&エコ教室発起人でもある伊藤和夫さんは語ります。

グリーンカーテンは、集会所の管理委員、町内会役員、地域の協力者によって美鈴が丘西集



▲夏休みに実施している「エコ教室」の様子

会所の空地、玄関横に幅38メートル、高さ3.6メートルのネットに日本アサガオ、風船カズラ、ゴーヤのプランター50個を設置し育てています。このグリーンカーテンに覆われた集会所で、毎年夏休みに主に西街区に住む美鈴が丘小学校の児童約130人を対象に「エコ教室」を開催。さまざまな学年の児童が一堂に集まって、自主的に読書や夏休みの宿題に取り組む学習支援の場を提供しています。また児童自身が集会所の中と外の温度や湿度を測ることで、グリーンカーテンによる環境の変化を身近に感じてもらう取り組みも行っています。

「人にやさしい集会所づくりはハード面の整備・拡充、そしてソフト面、特に人、花、緑、それにエコをうまくミックスする必要があると思います。そうすることで地域コミュニティの場として良質なものが提供できて、居心地の良さが引きだせると思っています」と、伊藤さんは語ってくれました。



▲美鈴が丘まちづくり夏祭りの様子

プラットホーム安芸飯室運営委員会

事務局 めんだ よう こ 免田 洋子さん

平成15年12月に廃線となったJR可部線の可部～三段峡間の「安芸飯室」駅。その廃線敷(旧安芸飯室駅広場)と駅待合所を、飯室地区住民の福祉活動と各種団体の情報を発信する場として、コミュニティ振興に役立てる目的で、平成26年に結成されたのが「プラットホーム安芸飯室運営委員会」です。

廃線後、所有権がJR西日本から広島市に移譲された後に廃線敷とプラットホームの一部を除いてグランドと駐車場として整備。その維持管理を「プラットホーム安芸飯室運営委員会」が担っています。

利用者増で懸念された問題を解決。さらなる活性化へ

「廃線後、跡地をグラウンドゴルフ場として整備して欲しい、との要望が地域住民から寄せられ、同時に駅舎の活用方法も模索されてきました。築80年を誇る木造の駅舎は、地元有志で修繕し、地元野菜や手作り雑貨の販売場所としての活用をスタート。歴史を感じる駅舎は鉄道ファンからも愛され、廃線後も昔を懐かしんで訪れたり、最近では近隣を



▲旧安芸飯室駅の駅舎



▲ハンドメイドマルシェの様子

走るサイクリストの休憩場所としても利用されていました。その中で、利用者が増えると避けては通れないトイレ整備の遅れが問題化。最初は、仮設トイレを設置していましたが、

地域住民は高齢者も多く、水洗トイレの設置が急務であると考えていました」と、事務局の免田洋子さんは語ります。

平成27年夏、駅舎に電気と水道が設置されたのを機に、メンバー有志によるグループRomuiによって、毎週日曜日のみ営業の駅舎カフェをオープン。さらには季節毎に、餅つき・門松作りや、園芸講座、ハンドメイドマルシェなどのイベントも開きます。また懸案の水洗トイレも、平成28年夏に完成。駅舎を利用する人に快適な空間を提供しています。「今後は、グラウンドゴルフ場のさらなる活用策、広場の新たな利用方法も模索し、地域住民の憩いの場、さらには地域の情報発信の拠点になるような取り組みを考えています」と、免田さんは今後について語ってくれました。



▲常設した水洗トイレ

公益信託広島市
まちづくり活動支援基金
ひと・まち広島
未来づくりファンド
ふむふむ²
Hm²

(公財)広島市文化財団では、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動を支援し、市民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進するための仕組みづくりとして、公益信託による基金「ひと・まち広島未来づくりファンドHm²(ふむふむ)」を設けています。

この基金は、豊かでいきいきとした市民社会づくりを目指すため、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動に対する助成事業を行っており、助成先は、学識経験者などで構成する運営委員会が公開審査し、決定します。

これまでの助成団体や助成額、活動報告等については、(公財)広島市文化財団ひと・まちネットワーク部のホームページでご覧いただけます。

また、基金では多くの皆様からの寄付をお願いしています。

HP <http://www.cf.city.hiroshima.jp/hitomachi/>

寄付のお願い

ひと・まち広島未来づくりファンドHm²(ふむふむ)は、市民・企業・行政等が力を合わせて、市民のまちづくり活動を長期にわたり支えていくために設けられた基金です。私たちの住む広島をよりよくしていくために、できるだけ多くの皆さまからの寄付をお願いします。

振込先 広島銀行広島市役所支店／別段預金 No.3000017

口座名義 公益信託広島市まちづくり活動支援基金寄付金受入口

専用の振込用紙をご使用いただければ、手数料はかかりません(ただし、広島銀行の窓口からの振込に限りです)。広島銀行の振込用紙を使用、または他の金融機関からの振込の場合、手数料は自己負担となります。

※この公益信託への寄付に対して税の減免はございません。

※頂戴したご寄付は、毎月末日締めにて集計し、翌月の5日(休日の場合は翌営業日)に基金へ寄付させていただきます。

基金の愛称「Hm²(ふむふむ)」とは…【ひと(Hito) まち(Machi) 広島(Hiroshima) 未来づくり(Miraizukuri) ファンド】の略で、頭文字(HMMH)をとって「ふむふむ」と読みます。【ひと】と【まち】をつなぎ、【広島】の【未来】を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。

基金の愛称「Hm²(ふむふむ)」とは…【ひと(Hito) まち(Machi) 広島(Hiroshima) 未来づくり(Miraizukuri) ファンド】の略で、頭文字(HMMH)をとって「ふむふむ」と読みます。【ひと】と【まち】をつなぎ、【広島】の【未来】を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。

05

06

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。
地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

親業訓練インストラクター おおした まさ え
大下 政江さん

親の役割は何かを学び

親子関係を改善し、健全で温かい家庭づくりを目指して

子育て中の親は、自分の親から伝えられてきた経験と、さまざまな情報・知識の中で試行錯誤を繰り返し、不安を感じながら過ごすこともあります。そんな暗闇で手探りしている親に子どもへの適切な接し方を教え、家庭を充実した豊かなものにできるようにと誕生したのが「親業訓練」です。アメリカの臨床心理学者トマス・ゴードン博士が創案した「親業訓練」は、親としての役割を効果的に果たし、また、親密かつ永続的な人間関係に必要な技法を具体的に学べるコミュニケーションプログラムです。カウンセリング、学習・発達心理学、教育学などの行動科学を基礎にしています。それを学び、自身も子育てを経験した親業訓練インストラクターとして、子育て支援のセミナーや講演などを通して親業の普及に努めているのが、大下政江さんです。

平成6年に初めて親業という言葉に耳にした大下さんは、親業に興味を持ち講演会に参加したり、関連する書籍を読む中で親業について学ぶようになりました。

「心の中では子どもの幸せを願っているのに、余裕がない時には、子どもに対して指示や命令ばかりをして、子どもを委縮さ

せていました。どうすれば、子どもにわかりやすく、親の愛情や心配を伝えることができるのか。自分が子育てする中で生まれた悩みや葛藤を抱えた時に、関わり方を変えて子どもと接する必要性を感じ、平成14年から親業訓練の講座に通いました。何度も足を運んでいるうちに、子育てを子どもと共に居心地良く楽しもうと考えるようになってきました」と話す大下さん。

自身の子育ても落ち着いた平成19年に、親業訓練インストラクターとしての資格を取得し、本格的に活動をスタートさせました。「インストラクターとして活動しさまざまな人と触れ合う中で、自分の悩みや葛藤も軽減し、反省や失敗を前向きに受け止められるようになりました」。

現在、広島市内には同じようなインストラクターが数名いますが、大下さんは自分の自宅や講座受講者の自宅、公共施設などさまざまな場で、子育て応援セミナーや講座を開き活動しています。

「私ももう少し子育てが必要なので、まずは自分が親業訓練で学んだことを丁寧に実践していくことを大切にしていきたいです。そして自身の子育ての経験や、親業訓練で得た知識を、子育てに悩み困っている人たちのために発信し、手助けしたいと考えています」と大下さんは今後の活動について語ってくれました。



大下政江さん



▲親業講座関連資料の数々



▲人材バンク発表会での様子



▲講演の様子

あなたらしく、ボランティア活動をはじめませんか!

「まちづくりボランティア人材バンク」への登録をお待ちしております。

自分の知識や技術、特技を生かして「ボランティア活動がしたい」、「地域社会の役に立ちたい」…しかし、いざ何かしたいと思っても、どこで、どのように、活動の場を探せばいいのか分からないとお

悩みの方はおられませんか。

そんな方におすすめの制度が「まちづくりボランティア人材バンク」です。活動の第一歩は「私はこんなボランティアができます」という情報を公開することです。そうすれば、あなたの力を必要とするグループや団体から、「教えてほしい」、「お手伝いしてほしい」というお声がかかるかもしれません。

合人社ウエンディひと・まちプラザ（まちづくり市民交流プラザ）が、ボランティアを依頼したいグループ・団体とボランティア登録者の仲介を行い、

双方の希望に合う活動の場をコーディネートさせていただきます。

ボランティア登録に必要なものは、あなたのやる気だけです。免許や資格は問いません。仕事や趣味等で得たあなたの知識や技術を、ぜひ「まちづくり」にお役立てください。

※まちづくりボランティア人材バンクは、政治・宗教・営利目的での登録並びに紹介申込は受けておりません。

※依頼があれば、紹介させていただくシステムです。登録された方に、もれなく活動の場をお約束するものではないことを予めご了承ください。

一般社団法人 農・食・医同源研究センター 事務局長 やました じゅんこ 山下 洵子さん

「地産地消」から「知産知生」へ。

知恵を生み出す拠点として、さまざまな知恵を持つ人たちの集まりに

食や健康に関することを軸にさまざまな活動を行い、平成23年に人材バンクに登録したのが「一般社団法人農・食・医同源研究センター」で、現在130人余りが在籍しています。

平成21年に異なる文化・業種・世代間で、農業・漁業・医療などいろいろな分野の情報や知識を共有し、互いに研磨・交流できる場を提供することで、よりよい地域づくりの支援をすることを目的に研究会を立ち上げました。平成22年には一般社団法人化し「地産地消」から知を産み知を生かす「知産知生」を目指して活動を続けています。「知産知生」とは知恵を生み出す拠点として、さまざまな知恵を持つ人たちの集まりにしたいという思いがこもっています。

事務局長を勤める山下洵子さんは、大学で農学を学んだのち医学部に勤務するようになり、まだ生活習慣病という言葉がない時代から、食と健康の関係などの研究をしていました。また、これまでの人生経験の中で、身をもって食の重要性を感じ、栄養学の面から素材の持つ力を正しく伝えたいと思うようになった



▲瀬野農園でのぶどう狩りの様子

そうです。そして「一般社団法人農・食・医同源研究センター」と理念を共有し活動に参加しています。

活動は、生活習慣病予防・改善のための料理教室を開催したり、食や健康に関



▲料理教室の様子

する講座を行ったり、会員同士で情報共有する場を設けるなど多岐にわたります。「活動はより多くの人に参加してもらいたいという思いから、公民館や、公共施設などさまざまな場所で行っています。参加する人が教えたり、教えられたり出来るのは、いろいろな分野を専門とする会員がいるからこそ。人とのつながりを大切にさまざまな活動を行うことが出来ています」。

また、会員が安芸区に所有する瀬野農園では、年間を通してさまざまな野菜や果物を栽培しています。手作りのドラム缶で作ったピザ窯で、農園で採れた野菜を使い、生地からピザを作る食事会や、果物狩り、郷土料理を次世代に伝える料理教室なども行って人々が集う場になっています。

「今後も、職業や年齢に関わらずさまざまな人たちと、食にまつわる情報を交換し、知恵を共有・協働することにより、食育やよりよい地域づくりの支援をしていきたいと考えています」と山下さんは今後の活動について語ってくれました。



▲ドラム缶ピザ窯：農園で採れた野菜を使い生地から作るピザ



開催日	内 容	出演者名
12月24日(土)	自然の蔓を使ったお正月リースづくり [定員40人(要事前申込)、材料費1,000円]	舞 ひかるさん
1月28日(土)	サイエンス折り紙教室	紙ニューケーション.net和(ノキロ)
2月25日(土)	朗読と絵本の読み聞かせ	ペンギン座
3月25日(土)	ポップス・歌謡曲など癒やしの軽音楽コンサート	ペーパー・ムーン

※内容・出演者は急遽変更になる場合があります。

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

合人社ウエンディひと・まちプラザ ☎(082)545-3911 ☎(082)545-3838